

I 研究指定校の概要

① 学校・地域の特色及び生徒の実態

本校は、北海道の渡島半島の最南端に位置する、全日制普通科5クラス(2年生のみ1クラス)の小規模校であり、「夢と文化を創造する学校」を目標に「松前学」「国際教育」「書道教育」を3つの柱とし、特色ある教育を目指している。生徒数は現在3学年71名、2学年36名、1学年57名、計164名である。地域や小中学校との結びつきも密接であり、本校の在校生はほとんどが松前町からの進学者である。本校の芸術教育は、募集定員が4クラスの時は「音楽」「美術」「書道」の3科目から選択することができたが、その後、クラスの減少に伴い、平成21年度までは音楽のみの設置となっていた。しかし本校の所在地であり、「近代詩文書の父」とも呼ばれる金子鷗亭の多くの事績も残されている松前町が、平成20年に書道教育を推進する条例を定めたことから、本校も平成21年度から、学校選択科目に「書に親しむ」を設定し、書道教育はスタートした。また平成22年度から芸術科目は、音楽から書道に代わり、平成23年度からは、北海道内の普通科高校としては最多の11単位を設け、書道教育は本格化した。また、平成23・24年度、国立教育政策研究所の「教育課程研究指定校事業」(芸術科書道)の指定を受け、平成25年度から完全実施となる新学習指導要領を見据え、「書の伝統と文化についての理解を深め、表現と鑑賞の能力を高める指導と評価の在り方に関する研究」という研究主題のもと、研究と実践を通して検証にあたった。

② 学校の概要(平成25年2月1日現在)

課程	学科	1年		2年		3年		計	
		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
全日制	普通科	2	57	2	36	2	71	6	164
計		2	57	2	36	2	71	6	164

本校教員数16名 本研究に関わる教員2名

(2年生は、少人数による展開)

芸術科目(書道)の開設状況

学年	教科名	
1学年	書道Ⅰ(必修)2単位	
2学年	書道Ⅱ(必修)2単位	応用の書(選択)2単位
3学年	書道Ⅲ(選択)2単位	漢字仮名交じりの書(選択)3単位

II 研究主題等に関して

① 研究主題

「書の伝統と文化についての理解を深め、表現と鑑賞の能力を高める指導と評価の在り方に関する研究」

② 研究主題設定のねらい

本校が所在する松前町は「書のまちづくり」に取り組んでおり、小中高一貫の書道教育を推進している。本校の3つの柱の1つである書道教育を通して、創造力と豊かな心の育成に取り組んでいる。特色ある書道教育として、函館美術館との連携を生かした鑑賞学習を主とし、学芸員との連携授業なども取り入れ、書の伝統と文化についての理解を深めさせ、表現と鑑賞の能力を高めることを目指して、本研究主題を設定した。

③ 取組体制

本校芸術科書道担当が中心となり、函館美術館や地域(松前町)の協力、本校国語科担当の協力を得て行う。

④ 2年間の主な取組

年 度	実施時期	内 容
平成 23 年度	4月～9月	1 生徒が有効に活用できるシラバスについての研究 2 創造力を高め、豊かな心を育成するための指導と評価についての研究 (1) 思考力・判断力・表現力等を育成する指導方法の工夫 (2) 言語活動の充実を図った鑑賞指導の在り方 (3) 評価規準・評価方法の工夫・改善 3 先進校への視察研修、大学や研究機関との連携による資料の収集や分析 4 美術館との連携による、作家の作品鑑賞の実施
	10月～3月	○設定した調査研究項目について実践及び検証の期間とする。 1 生徒が有効に活用できるシラバスの作成の実施 2 公開授業の実施(次の(1)から(3)の観点で成果や課題の検証) (1) 思考力・判断力・表現力等を育成する指導方法の工夫 (2) 言語活動の充実を図る鑑賞指導の在り方 (3) 指導と評価の一体化
平成 24 年度	4月～9月	○調査研究項目の検討結果を踏まえた指導と評価の工夫・改善を行う。 1 1年次に作成したシラバスや教材を活用した授業実践及び公開授業の実施 2 生徒や保護者・教職員・地域・研究機関等からの評価による課題の明確化 3 言語活動の充実を図る表現指導の在り方の検討 4 評価項目の検証及び改善策の検討 5 美術館の学芸員との連携授業を実施
	10月～3月	○工夫・改善の検討を行い精査した調査研究項目についての実践、及び研究の成果のまとめと普及を行う期間とする。 1 作成した評価規準・評価方法を活用した評価の実施 2 設定した評価の観点及び評価規準の検証 3 公開研究授業における研究概要と成果の発表及び研究協議 4 研究機関や連携校への研究成果と課題の提示及び意見聴取 5 調査研究のまとめ 6 Webページ等による研究機関や連携校をはじめ、地域等への研究成果の公表

⑤ 研究成果の要点

平成 23 年度	① 学習指導要領で求められている中学校国語科書写との円滑な繋がりを意識し、「文房四宝」の単元を導入し体験型の授業を通して、生徒に興味・関心を与えられた。 ② 鑑賞学習の充実を目指し、地域に資する書道作品(名品)や美術館での書作品の鑑賞を通して、表現力の育成に効果を見出せた。 ③ 生徒達の制作した書作品を貼りだし、相互の鑑賞学習を通して批評・工夫・改善箇所等を伝え合い、互いの良さを発見する機会を設けたことが、言語活動の充実に繋がった。 ④ 国語科とのクロスカリキュラムを実践するべく協力を依頼した。特に「言葉」の選定に力を借り、素材に対し自ら思考し判断し、自己の意図に基づいた作品制作への意識を高めた。
平成 24 年度	① 生徒の思考力・判断力・表現力の向上を目指し、系統だて指導を展開した。特に、ワークシートの充実をはかり、書表現の諸要素を段階的に取り入れ目的を明確に絞った。 ② 表現力の育成については、相互評価や鑑賞学習を取り入れ対話を中心し、生徒の意図を明確に導きだし、指導の工夫・改善に生かすことができた。 ③ 国語科との連携(教科横断型)を生かし、「言葉」の深まり、自ら作成したキャッチフレーズに責任を持たせるなど、「言葉」による素材選定について国語科の力を借りることで効果的な指導を実践することに繋がった。 ④ 漢字仮名交じりの書における、興味・関心の向上を目指し名筆の鑑賞をより重視した。また国語科との連携を生かし、文学者が書き遺した漢字仮名交じりの書を紹介することで、言葉と書表現の諸要素との関わりを考える機会を持たせることもできた。

